

第3章

計画の基本的な考え方

- 1 計画の将来像
- 2 2025年に向けたキーワード
- 3 2025年へのアプローチ
- 4 本市の地域包括ケアシステム

1 計画の将来像

- 高齢者一人ひとりが可能な限り住み慣れた地域で安心と安全に包まれ、いつまでも生きがいを持って自分らしく幸せな「生活」を送ることができるまちづくりを進めるため、本計画の2025年に向けた将来像を以下のように掲げます。
- なお、本計画の将来像については、平成24年度を地域包括ケア元年と位置付け、以降、計画の連続性と整合性を維持するため、引き継いでいます。

住み慣れたまちで自分らしく生きる
～高齢者にやさしい「わ」のまちひかり～

2 2025年に向けたキーワード

キーワード1 『つながり』

- 第7期計画では、地域と行政の対話を深め各地域の特色に応じた互助の取組による「生活支援体制」や、介護予防サービスを利用する方への支援を多職種が連携し自立支援に向けた取組を検討する「地域ケア個別会議」について、着実に進めることができました。
- 本計画では、地域共生社会の実現に向け、地域や事業所、行政等がつながり、これまでの取組をさらに進めていくことが大切だと考えます。

キーワード2 『場づくり』

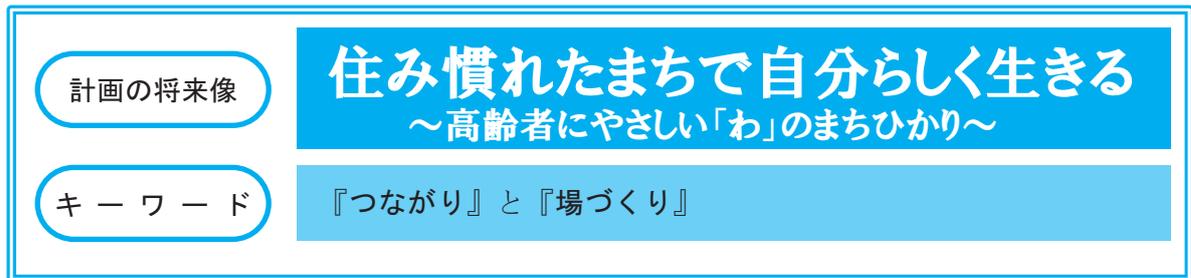
- 各地域には、地域コミュニティ協議会を中心に、互助の取組を進める「地縁型のコミュニティ」と、認知症を支える会やスポーツ・趣味のような生涯学習活動などでつながる「テーマ型のコミュニティ」があります。
- 一方で、役員の高齢化や担い手不足により、活動の維持が困難なケースも生じていることから、こうした多様な団体や人が集う「場づくり」の推進や、新たな人材を巻き込むしかけなど、高齢者のみならず、子どもや子育て世代を巻き込み、世代を超えた「場」の取組を進め、地域を活性化していくことが大切だと考えます。

3 2025年へのアプローチ

(1) 計画の将来像等

●第7期計画の「計画の将来像」、「キーワード」を継承するとともに、第7期計画で定めた3つの施策の柱を中心に、国の動向等を踏まえながら更なる充実を図っていきます。

(2) 将来像の実現に向けたアプローチ



～2025年に向けた展開～

